

## ～最近の人工関節置換術～

我が国の65歳以上の人口は、平成26年には全人口の26.0%を超えています。超高齢社会を迎えた現在、高齢になってもいかに生活の質を保ちながら有意義な毎日を送れるかが重要ですが、そこに一役買ってくれるのが人工関節です。

人工関節には膝、股関節、肘、肩、指関節などの種類があります。平成25年のデータによれば、膝関節の置換術が約81,300件、股関節の置換術が約53,500件行われ、10年前と比べていずれも倍増しています。多くの病院で行われる一般的な手術になってきており、患者さんにとっては、どこの病院で手術をすれば良いのか迷ってしまうような状況かと思えます。体の一部である関節を人工物に置き換える手術であり、一度行えば何十年もその関節とともに生活することとなります。大切な選択の際の一助になればと思い、手術のポイントを紹介します。

まず膝関節ですが、手術の傷の大きさなど体への負担を小さくする低侵襲手術がもてはやされる傾向がありますが、より確実な手術を行うためには、患者さんの体の大きさや関節の変形の度合いに合わせたある程度の傷の大きさは必要です。傷の大きさの差では術後の痛みや機能にあまり差は出ませんの

で、膝に関してはあまり低侵襲という言葉に左右される必要はないと思います。それよりも最近は様々なタイプの人工膝関節が開発されていますので、それぞれの患者さんのニーズや変形の程度に応じた関節を選ぶことが重要に感じます。

次に股関節です。股関節は膝関節と比べ動きも単純なため、患者さんの満足度の得られやすい手術と言われていますが、それゆえ脱臼といった合併症がついて回ります。「前から」「後ろから」「横から」など、人工関節を挿入する方向により脱臼しづらいともいわれています。しかし、元々の変形の度合いによる違いこそあれ、きちんと人工関節を設置し、股関節の安定性を保つ組織の修復を行えば、どこから挿入しても脱臼の確率は格段に減少します。主治医の先生とよく相談し、ご自身が納得したうえで手術を受けられることが重要と考えます。

人工関節は関節の機械的な向上と技術の進歩により、どちらの病院でもおおよそ安全に行われていることは事実です。そういった意味では、やはり、執刀してもらう先生との良好な関係が、術後の経過を一番良くする要素ではないでしょうか。

**問合せ** 市民病院 ☎24-6111 ☎22-0887